

分野名：人権教育

学校でも家庭でもない、みんなの居場所 ～子どもの「やってみたい」を育む、下町ふれあい広場～

小郡市 下町ふれあい広場 【自治公民館】
代表 吉田 喜三郎

1 事業名

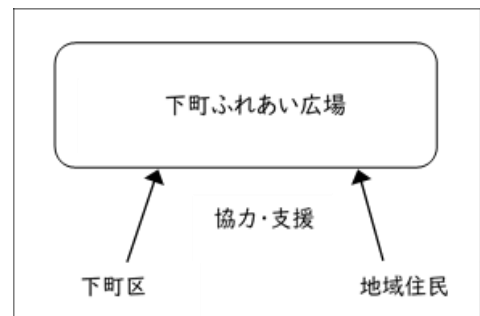
下町（しもまち）ふれあい広場

2 事業の目的

「放課後、子どもたちは何をして過ごしているんだろう？」「子どもたちが安全に楽しく過ごせる場所を作りたい」という思いから、平成28年4月に「下町ふれあい広場」事業を開始しました。毎週木曜日の15時から17時（夏季は18時）まで、下町区公民館を拠点に、放課後の児童の居場所づくり、見守り活動を行っています。また、月に1回を目安に、季節に合わせたイベントを開催しています。学校の授業や普段の生活では体験できないようなことを体験し、子どもの自主性を伸ばす機会を提供しています。

3 事業の主体

下町ふれあい広場は、現在10名の構成員で運営しています。構成員は民生委員や区議員、子ども会や老人会の元会長などで、地域のさまざまな人が広場の運営に関わっています。



4 事業予算

151,711円（令和元年度）

5 事業の内容

- 「下町ふれあい広場」の実施
 - 日 時：毎週木曜日15時から17時（夏季は18時）まで
 - 場 所：下町区公民館、隣接する日吉神社境内他
 - 対象者：下町区及び周辺地域の子どもたち
 - 内 容：子どもの居場所づくり、見守り、屋外活動

- 「下町ふれあい広場通信」の発行
令和元年度発行回数：4回



○年間行事（令和元年度）

	内容	参加者
5月	炊き込みごはんのおにぎり作り	子ども14名、大人9名
	サツマイモの植え付け	子ども16名、大人8名
6月	ジャガイモ掘り	子ども9名、大人7名
7月	ソーメン流し	子ども32名、大人37名
8月	七夕飾り付け	子ども8名、大人10名
9月	おはぎ作り	子ども11名、大人10名
10月	サツマイモ掘り	子ども16名、大人10名
11月	干し柿作り	子ども4名、大人11名
12月	クリスマス会準備	子ども17名 高校生8名、大人5名
	クリスマス会	子ども18名 高校生10名、大人8名
1月	万華鏡作り	子ども9名、大人8名
2月	バレンタインチョコ作り	子ども19名、大人8名
	ジャガイモの植え付け	子ども7名、大人9名
3月	クッキー作り	子ども18名、大人9名



授業を終えて公民館を訪れた子どもたちは、広場スタッフと一緒に宿題をしたり、ボードゲームで遊んだり、隣接する日吉神社境内で遊んだり、それぞれ自由に過ごします。スタッフも、子どもたちの明るい声を聞きながら将棋やおしゃべりを楽しんでいます。



サツマイモやジャガイモは、植え付けから子どもたちが行い、収穫をしています。土を掘り起こすと、自分たちで植えたサツマイモやジャガイモがたくさん出てきて、子どもたちは大喜びです。スタッフと子どもたちだけでなく、親子のふれあい、ご近所同士のふれあいも生まれています。



季節のイベントは子どもたちの出番！ソーメン流しで火をおこしたり、麺をゆでたりするのも子どもたちの仕事です。毎年、月に一度公民館に高齢者が集う「下町ふれあいサロン」と合同で開催しています。サロンの高齢者は、子どもたちが作ったソーメンを喜んで食べてくれました。地域の高齢者と子どもが交流するイベントは、引きこもりがちな高齢者が外に出るきっかけづくりにもなります。



クリスマス会も、出し物の企画から司会進行まで子どもたちが主体で行います。出し物は手品、歌、一発芸、クイズなどさまざまです。広場スタッフも、ギターを弾いたり、スクリーンにクリスマスのお話を上映したり、子どもたちに導かれて会を盛り上げます。

6 事業の成果

下町ふれあい広場は、令和元年度は41回実施し、子どもは延べ369名、見守りのスタッフは延べ386名が参加しました。クリスマス会には三井高校ボランティア部の学生も参加しており、地域外の人たちも巻き込んだ多世代交流が生まれています。

広場に遊びに来るのはほとんどが小学生ですが、中学生になっても地域で会ったときにはあいさつをしてくれます。広場で過ごす時間を通じて、地域が見守り、応援してくれているという安心感を得られる環境が作られており、子どもたちは地域とのつながりの中で成長しています。また、広場では、畑での植付・収穫作業やソーメン流しの火おこしなど、学校や家庭では体験できないような活動を積極的に取り入れ、子どもの自主性や主体性を育てています。

7 今後の課題

現在、学校や家庭に不安を抱えている子どももいるようです。また、子ども会に加入していないなど、地域との交流の機会が少なく、関わりをもちにくい子どももいます。そういった子どもたちにも広場に参加してもらうにはどうしたらいいか、広場やイベントの情報をどのようにして届けるか、考えていきたいと思っています。

8 問合せ先

〒838 - 0198 福岡県小郡市小郡 255 番地 1

小郡市役所 市民福祉部 コミュニティ推進課 コミュニティ推進係

TEL:0942-72-2111 FAX:0942-73-4466 E-mail:community-s@city.ogori.lg.jp

ふれあい広場で考えたこと

小都市 小学校

わたしたちが住んでいる下町の公民館では、毎週水曜日の夕方から、「ふれあい広場」というものがあります。ふれあい広場では、月に一回その季節にあった行事をします。例えば、七月にはそうめん流しをしました。自分たちで作った竹のすべり台をそうめんが楽しそうに流れていき、それをつかんで食べました。八月には、七夕のささきのかざりつけをしました。みんないろいろなおねがいを書いたリ、おりがみをおつかざりを作ったりしたおかげで、さがとてもぎやかにまりました。

ふれあい広場では近所のおじちゃん・おばちゃんがやさしくふれあってくれます。初めて入ったときも、スツときんちようがほぐれるほどやさしかったのでうれしかったです。

ふれあい広場にいるおじちゃん・おばちゃんは、その他の下町の行事にも、自分の特技を生かしながら、進んできょうかしてくれます。例えばおん祭りの太このふりつけは、なるとみさんがやさしく分かりやすく教えてくれるし、くまでさんは春のスポーツフェスティバルのスカイボールをきびしく教えてくれます。下町のキャンプでは、キャンプファイヤーの前でギターを使って歌を歌ってくれるやさしいおじちゃんもいます。あと、ふれあい広場の中では、

のうトレの本をかしてくれる人もいます。おばちゃんたちは、おり紙や工作などを分かりやすく教えてくれます。

わたしは、自分のおじいちゃん・おばあちゃんといっしょに住んでいて、いつもいろいろな話が聞けます。でも、友達の中にはおじいちゃん・おばあちゃんとはなれて住んでいる人もいます。そういう人はお父さん、お母さん以外の大人とは、なかなか話をすることができません。だけど、ふれあい広場に行くと、おじちゃん・おばちゃんがたくさんいます。

自分の住んでいる町に知り合いがたくさんいて、声をかけてくれる人がふえると町は必ず明るくなると思います。

これから下町にひっこしてくる人には、自分も声をかけていき、仲よくなりたいです。わたしは、下町が大好きです。

引用元

令和元年度 福岡県児童文集

『わたしたちの文集 中台本 3・4年』

(福岡県小学校国語教育研究会 編)